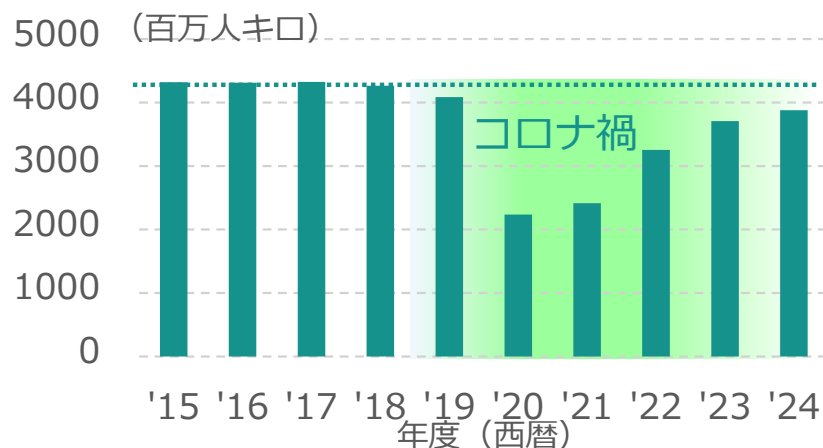


**運賃改定に至った背景、
これまで・これからの取り組みについて**

経営環境の変化

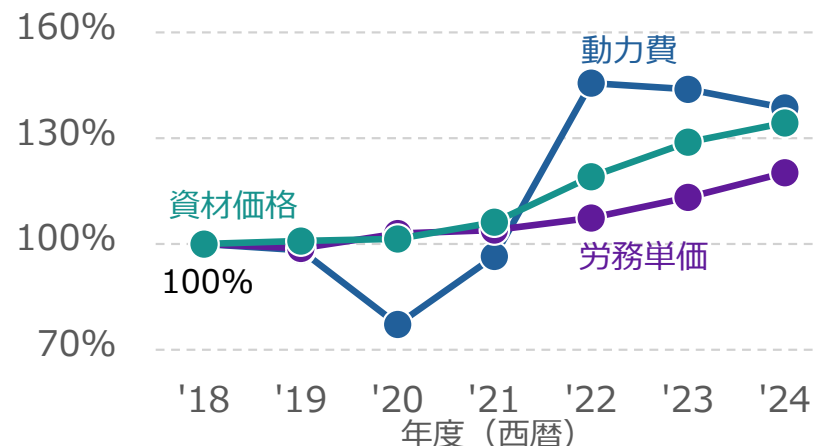
コロナ禍を背景とした行動変容、道内の人口減少により輸送量は元の水準には戻っていない一方、物価は急激に上昇している状況です。

● 輸送量の推移



● 物価の推移

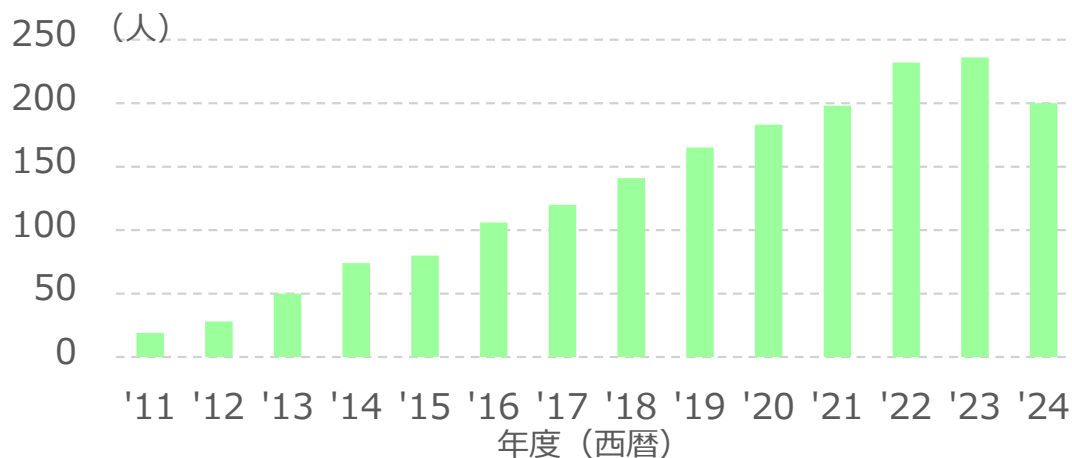
※資材価格は建設資材物価指数（札幌_建設総合_年平均）
労務単価は公共工事設計労務単価（全国全職種平均値）



人材の確保

自己都合退職者が増加する中、働き手を安定的に確保していくため、待遇等の改善を図ることが急務な状況です。

● 自己都合退職者の推移

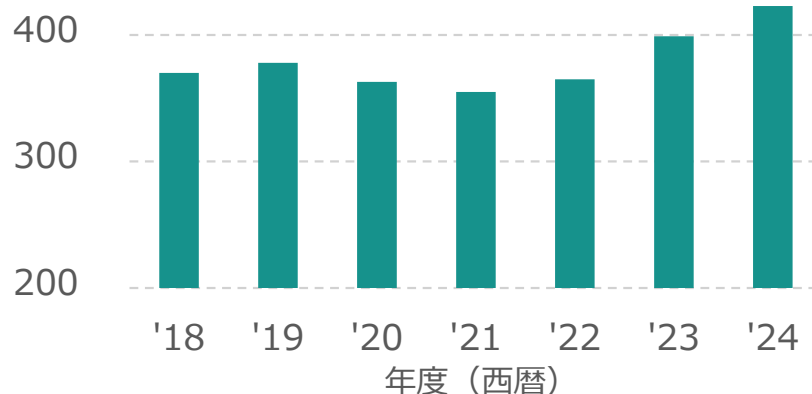


長年ベースアップを実施してこなかったことや、賞与削減などにより人件費を抑制したこともあり、専門的な技術が必要とする鉄道事業人材確保のためには、待遇や職場環境改善の実施が必須となっています。

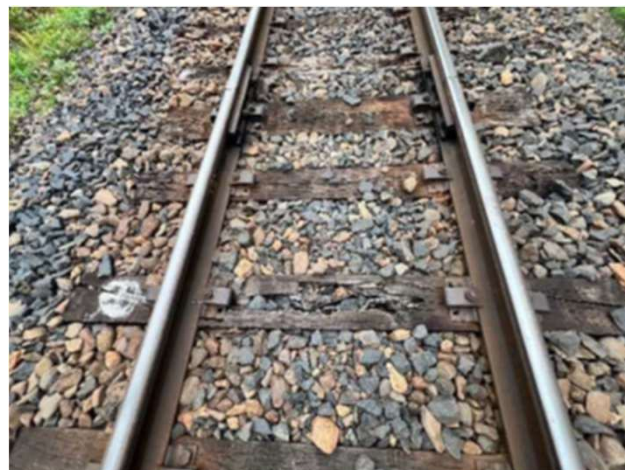
輸送サービス維持

「絶対に守るべき安全の基準を維持する」ために、老朽化した設備の維持等を適切に行う必要があります。一方で、昨今の材料費や人件費の上昇により、今後も修繕費の増加が見込まれます。

● 修繕費の推移（億円）



● 老朽化した線路設備



● 老朽化した運行管理システム



● 老朽化した土木構造物（橋梁）



● 老朽化した車両



- 老朽化した設備の効率的なメンテナンスの一例「線路集中メンテナンス」
修繕費を効果的に活用する取り組みとして、線路設備の修繕作業では、日中時間帯の列車を運休止連続した作業時間で作業を集中的に行っております。

＜2024年度の線路集中メンテナンスによるマクラギ交換の実績＞

施行区間	施行日数	マクラギ 交換数	施行効率
石北線（緋牛内～網走間）	10日間	約2,400本	約2倍
根室線（厚岸～標茶間）	10日間	約2,100本	
日高線（苫小牧～鷗川間）	5日間	約1,100本	
計		約5,600本	

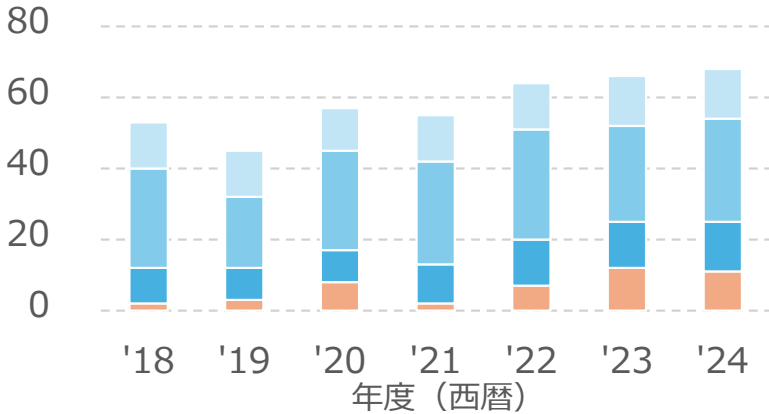


重機を使用したマクラギ交換作業

輸送サービス維持（冬期間の取り組み）

厳しい冬の北海道においてもお客様に安心してご利用いただけるよう、冬期間の安全・安定輸送確保のためさまざまな取り組みを行っています。除雪等に係る冬期経費は人件費の上昇等により増加傾向にあります。

● 冬期経費の推移（億円）



(億円)		'24年度	内 容
営業費用	人 件 費	14	駅構内のポイントやホームの除雪パートナー社員に係る費用
	修 繕 費	29	線路の機械除雪、踏切の除雪に係る外注費など
	そ の 他	14	ポイント部の雪を溶かすための電気代など
	計	58	
設 備 投 資		11	排雪モーターロータリーの導入など
合 計		69	



駅構内の人力除雪



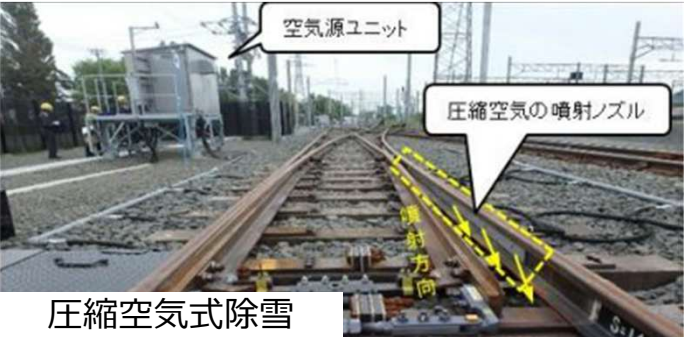
機械除雪



氷柱落とし



踏切除雪



圧縮空気式除雪



車両の融雪



線路脇に溜まった側雪

(1) 老朽取替

H100形電気式気動車の新製

○主にローカル線で運行している気動車（キハ40形）の老朽化に伴い、電気式気動車（H100形）へ更新しています。2024年度までに99両の更新をし、車両メンテナンス業務の効率化が図られています。



キハ40形



H100形

話せる券売機の配備拡大

○「話せる券売機」は、お客様ご自身で、指定席等の切符を購入できるほか、オペレーターによる遠隔操作で窓口サービスを行う非接触型の券売機としてお客様の利便性向上を図るために各駅へ配備を拡大しています。



(2) 安全性の向上

運転支援

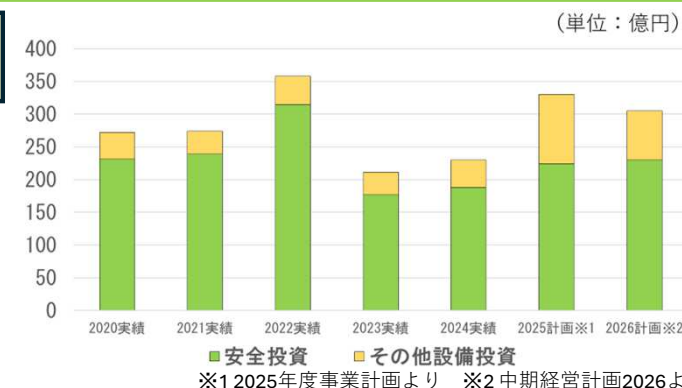
運転士は入力不要
徐行情報は一斉配信



○運転士へ徐行区間などを注意喚起する機能を持たせたアプリを導入し、安全性・安定性の向上を図っています。

設備投資の推移

○車両・保守用車の新製（老朽取替）、検査機器の導入や自然災害への備え、バリアフリー化等のさまざまな分野における設備投資を着実に進めています。



(3) 頻発化・激甚化する自然災害への対応 地震・豪雪等への対策

○激甚化する自然災害に備え、お客様の安全・列車の安全運行を確保するための対策を進めています。



胆振東部地震により被害



高波被害

豪雪による状況

耐震補強



施工前



施工後

高波対策の検討



除雪機械の大型化・強馬力化



(4) 地域と連携した駅及び駅周辺整備 駅及び駅周辺の整備

○駅舎・乗換ご線橋の整備、エレベーター、案内表示の新設等のバリアフリー化により、どなたでもご利用しやすい施設整備を進めています。

【登別駅】



イメージ図

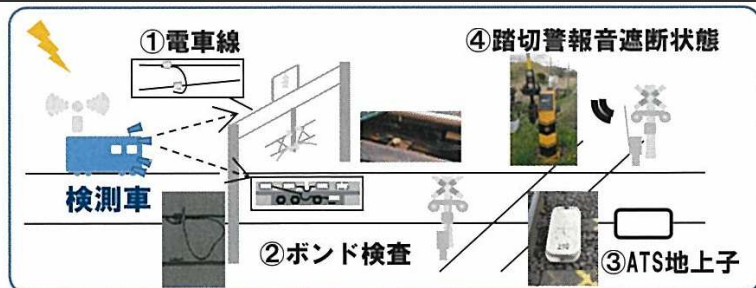


これからの取り組み

(1) さらなる安全確保に向けて

電気検測車の新製

○電気検測車は、自社特有の電気設備の検測を可能とし、徒歩等で実施している外観検査の一部もモニタリング装置による画像検査に置き換えることで機械化・省力化を図っていきます。



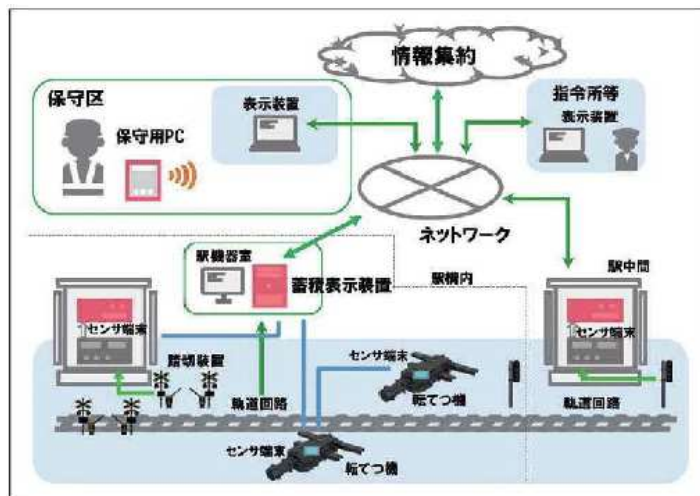
土木構造物検査の省力化

○橋りょう・トンネル・鉄道林・土工等設備の検査をドローンの撮影画像やソフトウェア（AI等）の活用により、安全性の向上、業務の効率化・省力化を検討していきます。



電気状態監視システム

○運転保安設備の検査データを自動で取得するため、作業時間（夜間帯等）に捉われず、検査結果を遠隔で確認できるシステムを導入していきます。



除雪の効率化



○ラッセル（DE15）の老朽化に伴い、ラッセル気動車（キヤ291形）を2026年度に3両導入し、除雪作業の効率化と安全・安定輸送の確保を図ります。

